

# 令和8年度（令和7年度分） 教育委員会が行う点検・評価 報告書

【教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に関する点検・評価】



令和8年8月

板橋区教育委員会



## 目 次

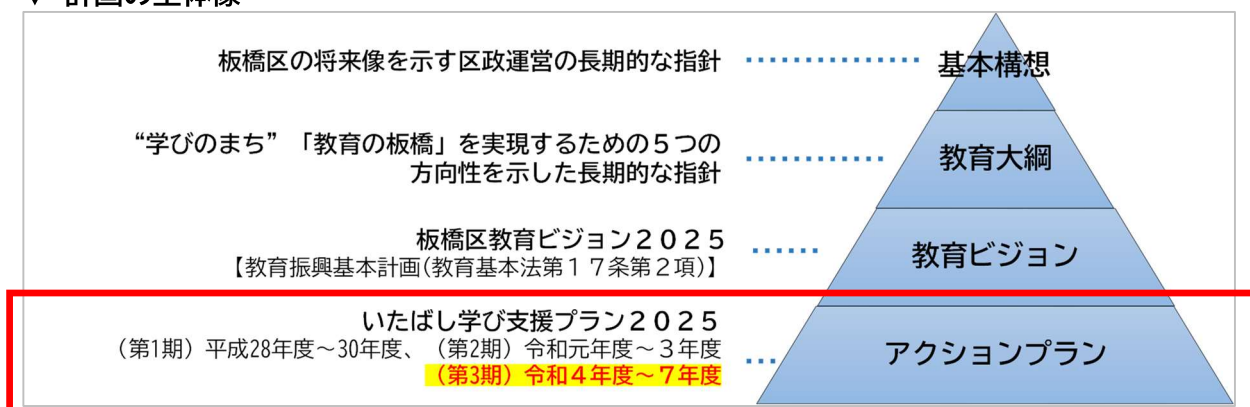
|          |                                 |    |
|----------|---------------------------------|----|
| <b>1</b> | <b>点検・評価の概要</b>                 |    |
| (1)      | 目的.....                         | 1  |
| (2)      | 実施方法等.....                      | 2  |
| (3)      | 対象事業.....                       | 4  |
| <b>2</b> | <b>学識経験者の知見を活用した事業の点検・評価</b>    |    |
| (1)      | 対象事業.....                       | 7  |
| (2)      | 点検・評価結果の概要.....                 | 8  |
| (3)      | 点検・評価結果の詳細.....                 | 13 |
| (4)      | 学識経験者による所管課ヒアリング意見・助言（要約）.....  | 25 |
| (5)      | 学識経験者と教育委員による意見交換会の意見・助言一覧..... | 28 |
| <b>3</b> | <b>学識経験者の知見の活用対象外事業の点検・評価</b>   |    |
| (1)      | 点検・評価結果の概要.....                 | 31 |
| (2)      | 点検・評価結果の詳細.....                 | 31 |

# 1 点検・評価の概要

## (1) 目的

- 教育委員会が行う点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき実施するものです。平成 19 年 6 月の法改正により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会へ提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検・評価の実施にあたっては、客観性及び透明性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用することが求められています。
- 教育委員会では、「板橋区教育大綱」のもと、「板橋区教育ビジョン」を教育振興施策に関する基本計画として位置付け、中長期的な視点から教育施策を総合的かつ計画的に推進するための指針としています。また、「いたばし学び支援プラン 2025」を教育ビジョンの実現に向けたアクションプランとして、具体的な事務事業を示しながら施策を推進しています。
- 教育委員会が行う点検・評価は、この「いたばし学び支援プラン 2025」の進行管理を兼ねて実施しており、各施策及び事業の成果や課題、今後の方向性を検証しています。その結果を次年度以降の施策立案や事業改善に反映することにより、教育施策の継続的な改善と効果的な推進を図っています。さらに、点検・評価の結果を区議会及び区民に公表することで、教育行政における説明責任を果たし、開かれた教育委員会の実現に努めています。

### ▼ 計画の全体像



### ▼ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

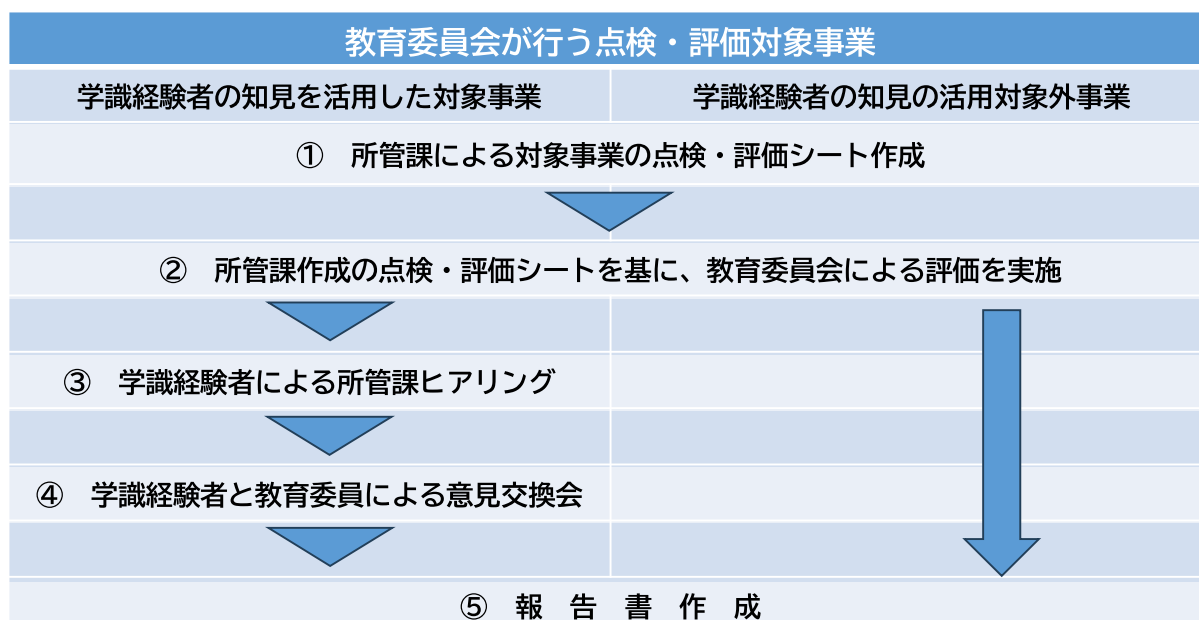
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



## (2) 実施方法等

- 教育委員会では、「いたばし学び支援プラン2025」に位置付けた事業について、令和7年度に実施した内容を対象として点検・評価を行いました。また、各事業の実績や成果、課題及び今後の方向性を整理し、教育施策の進捗状況を総合的に検証しています。
- 点検・評価の実施にあたっては、客観性及び透明性を確保するため、教育に関し学識経験を有する2名の有識者から意見・助言をいただいています。教育委員会による評価後に学識経験者からの意見を聴取し、その知見を対象事業の改善・向上に活用しています。
- なお、本報告書では、令和7年度の点検・評価対象事業について、学識経験者の知見を活用した事業と活用しない事業に区分して評価結果を整理するとともに、教育委員会による評価、学識経験者からの意見・助言及び意見交換会の内容を掲載しています。

### ▼ 実施の流れ



- ① 所管課による対象事業の点検・評価シート作成  
各事業の所管課において、事業の進捗状況や目標に対する達成度、実績等を踏まえ、点検・評価シートを作成しました。
- ② 教育委員会による評価  
教育長及び教育委員（4名）が、所管課が作成した点検・評価シートを基に、事業の成果や課題、今後の方向性について評価を行いました。
- ③ 学識経験者による所管課ヒアリング  
学識経験者の知見を活用した対象事業について、学識経験者が所管課へのヒアリングを実施し、事業の成果や課題に対する意見・助言をいただきました。

④ 学識経験者と教育委員による意見交換会

学識経験者と教育委員による意見交換会を開催し、対象事業に関する課題や今後の取組の方向性について議論を行うことで、教育施策の推進に向けた知見を深めました。

⑤ 報告書作成

教育委員会による評価結果及び学識経験者からの意見・助言を踏まえて報告書を作成し、区議会へ提出するとともに、区民へ公表します。

## ▼ 事業評価の見方

点検・評価の客観性及び統一性を確保するため、所管課による評価及び教育委員会による評価において共通の「評価評語」を用いて評価を実施しています。

「評価評語」 各事業の目標に対する達成状況や進捗状況を総合的に評価したものであり、事業の成果や課題を把握するための指標として位置付けています。

「方向性」 評価結果を踏まえ、事業の継続性や有効性、効率性などの観点から、事業手法や目標値・指標等の見直しの必要性を検討したうえで、今後の取組の方向を示すものです。

| 評価評語 | 順調         | 目標に向け順調に進捗しており、目標達成が見込める |
|------|------------|--------------------------|
|      | 概ね順調       | 目標に向け進捗しており、目標達成が期待できる   |
|      | 停滞         | 目標に対して進展していない            |
|      | 達成         | 既に目標を達成している              |
| 方向性  | 工夫して継続     |                          |
|      | 事業の転換      |                          |
|      | 事業手法の見直し   |                          |
|      | 目標値・指標の見直し |                          |
|      | 事業の廃止      |                          |

### (3) 対象事業

- 「いたばし学び支援プラン2025」に位置付けられた全事業を対象に、令和5年度から令和8年度にかけて点検・評価を実施しており、今年度は同プランの計画期間及び点検・評価期間の最終年度となります。なお、計画期間全体の成果と課題については、「MIRAI SCHOOL いたばし－教育ビジョン2035－」及び「MIRAI SCHOOL いたばし－アクションプラン2028－」の策定に当たり既に検証を行っているため、本年度の点検・評価では、最終年度における事業の実施状況を確認するとともに、その結果を今後の教育施策の推進に活用します。

▼ 【参考】「MIRAI SCHOOL いたばし－教育ビジョン2035－」及び「MIRAI SCHOOL いたばし－アクションプラン2028－」



区ホームページ

## いたばし学び支援プラン2025重点施策及びその実現のための個別事業一覧

※ 点検・評価の実施年度等は、以下のとおり表記しています。

上段：点検・評価実施年度、下段：事業実施年度

◎：学識経験者の知見を活用した対象事業、○：学識経験者の知見の活用対象外事業

| 基本的<br>方向性       | 個 別 事 業                    | R5 | R6 | R7 | R8 |
|------------------|----------------------------|----|----|----|----|
|                  |                            | R4 | R5 | R6 | R7 |
| これからの社会を生き抜く力の育成 | 重点施策1 確かな学力の定着・向上          |    |    |    |    |
|                  | (1) 確かな学力を育てる授業づくりと学習環境の確保 |    |    |    |    |
|                  | ・教科等指導専門官の活用               |    | ○  |    |    |
|                  | ・板橋区立学校学級安定化対策事業の実施【柱4】    |    |    |    | ◎  |
|                  | ・ICT環境の適切な維持と活用            |    | ◎  |    |    |
|                  | (2) 読み解く力の育成               |    |    |    |    |
|                  | ・読み解く力の育成を通じた学力向上          |    | ○  |    |    |
|                  | (3) 図書館を活用した学校の読書活動の充実     |    |    |    |    |
|                  | ・学校図書館の充実                  |    | ○  |    |    |
|                  | ・区立図書館と学校との連携強化【柱4】        |    |    |    | ◎  |
|                  | (4) 英語力の向上                 |    |    |    |    |
|                  | ・英語教育の充実                   |    | ○  |    |    |
|                  | (5) プログラミング的思考の育成          |    |    |    |    |
|                  | ・プログラミング教育の推進              |    | ◎  |    |    |
|                  | ・ロボットプログラミング教室の実施          |    | ◎  |    |    |

| 基本的<br>方向性         | 個 別 事 業                                        | R5 | R6 | R7 | R8 |
|--------------------|------------------------------------------------|----|----|----|----|
|                    |                                                | R4 | R5 | R6 | R7 |
| これからの社会を生き抜く力の育成   | 重点施策2 豊かな人間性の育成                                |    |    |    |    |
|                    | (1) キャリア教育の充実                                  |    |    |    |    |
|                    | ・キャリアパスポートを核としたキャリア教育の充実                       |    | ○  |    |    |
|                    | (2) 各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組              |    |    |    |    |
|                    | ・各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組【柱4】             |    |    |    | ◎  |
|                    | (3) 環境教育の推進                                    |    |    |    |    |
|                    | ・「板橋区環境教育推進プラン2025」に基づく環境教育の推進                 |    | ○  |    |    |
|                    | 重点施策3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした教育の推進      |    |    |    |    |
|                    | (1) オリンピック・パラリンピック教育の推進                        |    |    |    |    |
|                    | ・「もてなしの心」促進事業及びレガシー事業の推進・拡充                    |    | ◎  |    |    |
| 子どもの学びを保障する教育環境の整備 | ・豊かなスポーツライフ実現に向けた行動体力・防衛体力の向上                  |    | ◎  |    |    |
|                    | 重点施策4 誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備                 |    |    |    |    |
|                    | (1) 特別支援教育の充実                                  |    |    |    |    |
|                    | ・特別支援学級の設置                                     |    |    |    | ○  |
|                    | ・特別支援教育に関する理解啓発                                |    |    |    | ○  |
|                    | ・特別支援学級・特別支援教室等の専門性向上                          |    |    |    | ○  |
|                    | (2) 不登校対策の推進                                   |    |    |    |    |
|                    | ・不登校改善重点校事業の実施【柱4】                             |    |    |    | ◎  |
|                    | ・板橋フレンドセンターの充実【柱4】                             |    |    |    | ◎  |
|                    | (3) 中高生勉強会「学びi（あい）プレイス」の推進                     |    |    |    |    |
|                    | ・中高生勉強会「学びi（あい）プレイス」の推進【柱4】                    |    |    | ◎  |    |
|                    | (4) 外国籍の子どもへの対応                                |    |    |    |    |
|                    | ・日本語の能力が十分でない児童生徒への対応                          |    |    |    | ○  |
|                    | (5) 学校における働き方改革                                |    |    |    |    |
|                    | ・学校における働き方改革の推進【柱3】                            |    |    | ◎  |    |
|                    | 重点施策5 保幼小中のつながりある教育の実現                         |    |    |    |    |
|                    | (1) 保幼小の円滑な接続                                  |    |    |    |    |
|                    | ・幼児期の教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）【柱1】                 | ◎  |    |    |    |
|                    | ・私立幼稚園との連携による幼小接続の推進【柱1】                       | ◎  |    |    |    |
|                    | ・保幼小のつながりある教育の推進（スタートカリキュラムの推進）【柱1】            | ◎  |    |    |    |
|                    | (2) 小中一貫教育の推進                                  |    |    |    |    |
|                    | ・小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（iカリキュラム）【柱1】 | ◎  |    |    |    |
|                    | ・小中一貫教育の推進（「板橋のi（あい）カリキュラム」の作成・実践（郷土愛）【柱1】     | ◎  |    |    |    |
|                    | ・カリキュラムマネジメントの推進（STEAM教育の充実、SDGs教育の推進）【柱1】     | ◎  |    |    |    |

| 基本的<br>方向性                 | 個 別 事 業                           | R5 | R6 | R7 | R8 |
|----------------------------|-----------------------------------|----|----|----|----|
|                            |                                   | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 子どもの学びを保障する教育環境の整備         | 重点施策6 安心・安全な教育の推進と学校環境の整備         |    |    |    |    |
|                            | (1) 魅力ある学校づくりの推進                  |    |    |    |    |
|                            | ・「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の推進【柱1】        | ◎  |    |    |    |
|                            | ・学校の改築【柱1】                        | ◎  |    |    |    |
|                            | ・学校の改修                            | ○  |    |    |    |
|                            | ・学校施設の整備                          | ○  |    |    |    |
|                            | ・学校施設のバリアフリー化                     | ○  |    |    |    |
|                            | ・学校施設の照明のLED化                     | ○  |    |    |    |
|                            | ・給食用設備・備品の更新                      | ○  |    |    |    |
|                            | (2) 自分を守り、相手を大切にする教育の推進           |    |    |    |    |
|                            | ・安全教育の推進                          |    |    | ○  |    |
|                            | ・「スマートフォン等を使うためのルール」リーフレットの活用     |    | ◎  |    |    |
|                            | (3) 安心・安全な放課後の居場所の確保              |    |    |    |    |
|                            | ・放課後対策事業「あいキッズ」の推進【柱4】            |    |    |    | ◎  |
| 地域と共に学び合う教育の推進             | 重点施策7 地域による学び支援活動の促進              |    |    |    |    |
|                            | (1) 地域人材による学校支援と参加の促進             |    |    |    |    |
|                            | ・板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進【柱2】       |    | ◎  |    |    |
|                            | (2) 子どもたちの健全育成の推進                 |    |    |    |    |
|                            | ・青少年健全育成事業の推進                     |    |    | ○  |    |
|                            | 重点施策8 生涯学習社会へ向けた取組の充実             |    |    |    |    |
|                            | (1) 世代を超えた「学びの循環」に向けた支援           |    |    |    |    |
|                            | ・中高生・若者支援の拡充と活性化【柱4】              |    |    | ◎  |    |
|                            | (2) 中央図書館の事業拡大と「絵本のまち板橋」の推進       |    |    |    |    |
|                            | ・生涯を通じた読書活動の支援【柱4】                |    |    | ◎  |    |
|                            | ・「絵本のまち板橋」の推進                     |    |    |    | ○  |
|                            | ・板橋区立図書館における電子図書館の推進              |    | ◎  |    |    |
|                            | (3) 板橋区の歴史・産業・文化の発信による新たな魅力・価値の創出 |    |    |    |    |
|                            | ・板橋区史跡公園（仮称）の整備                   |    |    | ◎  |    |
|                            | ・旧粕谷家住宅の公開                        |    |    | ◎  |    |
|                            | 重点施策9 家庭における教育力向上への支援             |    |    |    |    |
|                            | (1) 家庭教育支援の推進                     |    |    |    |    |
|                            | ・家庭教育支援チームの拡充                     |    |    | ○  |    |
| すべての<br>方向性に<br>共通する<br>事業 | (1) 区民が身近に感じる教育委員会の実現             |    |    |    |    |
|                            | ・広報活動の充実                          |    |    | ○  |    |
|                            | ・主体的に働きかける教育委員会の充実                |    |    | ○  |    |

「いたばし学び支援プラン2025」では、板橋区が抱える教育課題やこれからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成に向け、「いたばし学び支援プラン2021」の施策・事業の柱である「柱1 保幼小接続・小中一貫教育の推進」、「柱2 板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進」、「柱3 学校における働き方改革」という3つの柱への取組を継続するとともに、区民の安心・安全な居場所や学び舎として、さらに不登校対策にとっても重要な役割を持つ「柱4 誰一人取り残さないための居場所づくり」を生涯学習の柱として加え、4つの柱を最重点の施策・事業としている。

## 2 学識経験者の知見を活用した事業の点検・評価

### (1) 対象事業

- 「柱4 誰一人取り残さないための居場所づくり」を中心とした6事業について、学識経験者による所管課ヒアリングを令和8年6月25日に実施し、取組状況の評価や今後の方向性に関する意見・助言をいただいています。
- また、令和8年7月27日に実施した学識経験者と教育委員による意見交換会では、個別事業ごとの議論に加え、事業間に共通する課題や今後の方向性についても幅広く検討できるよう、「区立図書館と学校との連携強化」、「放課後対策事業『あいキッズ』の推進」及び「不登校・いじめ対策の推進」の3つの議題に整理し、それぞれの取組の成果や課題、今後の方向性等について意見交換を行いました。

#### ▼ 対象事業

| 議題1 区立図書館と学校との連携強化    |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
|                       | 区立図書館と学校との連携強化                |
| 議題2 放課後対策事業「あいキッズ」の推進 |                               |
|                       | 放課後対策事業「あいキッズ」の推進             |
| 議題3 不登校・いじめ対策の推進      |                               |
|                       | 板橋区立学校学級安定化対策事業の実施            |
|                       | 各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組 |
|                       | 不登校改善重点校事業の実施                 |
|                       | 板橋フレンドセンターの充実                 |

#### ▼ 学識経験者



中村 豊氏  
東京理科大学 教育支援機構  
科学教育連携センター教授



林 幸克氏  
明治大学 文学部教授

## (2) 点検・評価結果の概要

### ① 教育委員会評価一覧

| 番号 | 個 別 事 業                       | 評価標語 | 方向性    |
|----|-------------------------------|------|--------|
| 1  | 区立図書館と学校との連携強化                | 順 調  | 工夫して継続 |
| 2  | 放課後対策事業「あいキッズ」の推進             | 順 調  | 工夫して継続 |
| 3  | 板橋区立学校学級安定化対策事業の実施            | 順 調  | 工夫して継続 |
| 4  | 各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組 | 概ね順調 | 工夫して継続 |
| 5  | 不登校改善重点校事業の実施                 | 順 調  | 工夫して継続 |
| 6  | 板橋フレンドセンターの充実                 | 概ね順調 | 工夫して継続 |

### ② 学識経験者からの意見

| 事業1                                                                                                                                                                                                          | 区立図書館と学校との連携強化 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <p>探究的な学習を支えるためには、どのような視点で資料を整備しているのかを明確にするとともに、学校図書委員会との連携については発達段階に応じた取組内容を示すことが重要である。また、電子図書館については、貸出状況や利用者層を分析しながら運用を進めることが望ましい。さらに、事業の成果を把握するための指標や根拠を明確にし、特別支援学級や日本語学級の児童・生徒への対応についても検討を深めていただきたい。</p> |                |

| 事業2                                                                                                                                                                                                              | 放課後対策事業「あいキッズ」の推進 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| <p>放課後の活動は学校生活の延長線上にあることから、児童同士のトラブルや保護者対応に適切に対応できるよう、委託事業者への研修や学校との連携をさらに充実させていただきたい。また、外部評価に加え、自己点検・自己評価の仕組みを導入することも有効である。利用状況については学年別や支援を要する児童の状況を含めて把握・分析し、改訂した利用児童への意見聴取ガイドラインについては、活用状況を検証していくことが望ましい。</p> |                   |

| 事業3                                                                                                                                                                 | 板橋区立学校学級安定化対策事業の実施 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| <p>WEBQU を活用した取組は、学級経営の安定化やいじめの未然防止に効果的であり、管理職や専門職を含めた活用が進められている点を評価したい。今後は、小学校から中学校へのデータの引継ぎや活用についても検討していただきたい。また、事業の目的や成果指標を整理し、何をもって効果とするのかをより明確に示すことが重要である。</p> |                    |

|                                                                                                                                                                        |                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| <b>事業4</b>                                                                                                                                                             | <b>各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組</b> |
| <p>いじめの積極的な認知が進んでいることは評価できるが、今後は法に基づく適切な初期対応を確実にを行うため、実践的な研修の充実が必要である。特に、専門家の知見を活用した研修についても検討していただきたい。また、基本方針の保護者や地域への周知状況を把握するとともに、啓発資料の活用状況や効果について検証を進めることが望ましい。</p> |                                      |

|                                                                                                                                                                                                            |                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| <b>事業5</b>                                                                                                                                                                                                 | <b>不登校改善重点校事業の実施</b> |
| <p>校内支援センターの運営に当たっては、「学校復帰」や「社会的自立」など、板橋区としてめざす方向性を明確にすることが重要である。また、支援につながっていない子どもを生まないためにも、専門性を有する支援員の配置など、支援体制の充実を図っていただきたい。加えて、不登校対応ガイドラインの活用状況や居場所の利用状況を把握し、実人数だけでなく割合による分析も行いながら事業効果を検証することが望ましい。</p> |                      |

|                                                                                                                                                                                                                                      |                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| <b>事業6</b>                                                                                                                                                                                                                           | <b>板橋フレンドセンターの充実</b> |
| <p>誰一人取り残さない支援を実現するためには、学校との情報共有や連携をより一層進めることが重要である。また、将来的には公認心理師など専門性を有する人材の活用も検討していただきたい。フレンドセンターは子どもがエネルギーを蓄える場であると同時に、その先の自立や社会参加につながる支援が求められるため、板橋区としてめざす姿を明確にする必要がある。加えて、不登校児童・生徒数が減少した要因や、学校以外の居場所の利用状況について分析を進めることが望ましい。</p> |                      |



③ 学識経験者と教育委員による意見交換会

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 議題1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 区立図書館と学校との連携強化   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ 区立図書館と学校との連携強化 |
| <p>図書館を使った調べる学習コンクールや読書感想文コンクールを通して、子どもたちが本や資料に触れ、自ら調べ、考え、表現する機会が継続的に確保されていることは評価できる。また、成果を発表する場が設けられており、子どもたちの学びを深める環境づくりが進められている。</p> <p>一方で、事業指標については、事業の実施回数や応募人数だけで評価するのではなく、読書活動や探究的な学びの定着状況など、事業の質や効果を客観的に検証できる指標の設定を進める必要がある。</p> <p>また、中学生を中心に読書率やコンクール応募者数の減少が見られることから、学校図書館同士や区立図書館と学校図書館との連携を一層推進するとともに、図書委員会活動等を活用しながら、子どもたちが主体的に本と関わる機会を充実させ、読書習慣の定着につなげていくことが重要である。</p> <p>さらに、小・中学校での取組だけでなく、コンクール等に取り組んだ児童・生徒がその後どのような学びや成長につながったのかを継続的に把握し、中学校卒業後も含めた視点から効果検証を行うことで、事業の成果をよりの確に評価していくことが求められる。</p> |                  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 議題2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 放課後対策事業「あいキッズ」の推進   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ 放課後対策事業「あいキッズ」の推進 |
| <p>「あいキッズ」は、安心・安全な放課後の子どもたちの居場所として安定的に運営されており、学校と連携しながら子どもたちの活動を見守り、支援できる環境が整備されている。また、多様な体験活動や学びの機会を提供し、子どもたちの成長を支える取組が進められている点は高く評価できる。</p> <p>一方で、今後の事業運営に当たっては、入学前の段階から利用ニーズを把握し、利用児童数の見込みや配慮を要する児童の状況を踏まえた体制整備を進めることが望ましい。</p> <p>また、利用児童への意見聴取については、事業運営や企画立案への参画など、子どもたちの意見をより積極的に反映する仕組みを検討するとともに、学年や発達段階によってニーズが異なることを踏まえ、好事例や課題の共有を進めながら、子どもたちの実態やニーズを継続的に把握していく必要がある。</p> |                     |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 議題3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 不登校・いじめ対策の推進                    |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ 板橋区立学校学級安定化対策事業の実施            |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ 各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ 不登校改善重点校事業の実施                 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ 板橋フレンドセンターの充実                 |
| <p>WEBQU の活用により、児童・生徒の状況を把握し、気がかりな児童・生徒への早期支援につなげることができている点は評価できる。また、管理職を含む教職員を対象に、システム開発者を招聘した研修を実施するなど、活用に向けた体制整備も図られており、今後も継続的な取組が求められる。</p> <p>いじめ防止に係る理解啓発については、引き続き研修を充実させるとともに、専門家や他校の事例等の外部の知見を効果的に活用しながら、学校外の関係者とも連携し、社会全体で子どもたちを支える体制づくりを進めていく必要がある。また、子どもたちを取り巻く環境や実態の変化に対応できるよう、柔軟な視点で施策を推進していくことも重要である。</p> <p>さらに、児童・生徒が SOS を発した際に適切な支援につなげられる環境を整備することが重要である。そのためには、教員個人による対応にとどまらず、学校全体による組織的な対応のもと、速やかな情報共有と初期対応を徹底し、重大事案への発展を未然に防ぐ必要がある。一方で、初期対応における留意点や効果的な対応方法に関する知見については、十分な共有が図られているとは言えず、今後の課題である。</p> <p>不登校支援については、社会的自立を学校復帰だけで捉えるのではなく、一人ひとりの背景や希望を丁寧に把握し、本人に合った学び方や居場所を見つけ、次の一步を自ら選べるよう支援することが重要である。また、支援を必要としながらどこにもつながっていない子どもの状況を把握し、適切な支援につなげる仕組みの充実が求められる。</p> |                                 |



【意見交換会の様子】



### (3) 点検・評価結果の詳細

|    |                |
|----|----------------|
| 番号 | 所管課：中央図書館      |
| 1  | 区立図書館と学校との連携強化 |

#### 事業目標

図書館と学校の積極的かつ継続的な連携により、児童・生徒の読書活動、学習活動の定着をめざす。

#### 事業概要

区内図書館、学校及び関連部署が連携し、児童・生徒の読書意欲を促すため読書環境の改善、興味や関心を掴んだ蔵書構成、イベント開催などに取り組む。

図書館サポーターの派遣、おすすめ本の選定、読書通帳の活用、コンクールの開催など、主体的な活動を促進し、読書や本と触れる場所や機会を創出していく。

| 事業指標                     | 単位 | 計画 | 実績 | 達成率  |
|--------------------------|----|----|----|------|
| ① 図書館を使った調べる学習コンクールの実施   | 回  | 1  | 1  | 100% |
| ② 読書感想文コンクールの実施          | 回  | 1  | 1  | 100% |
| ③ 「いたばし国際絵本翻訳大賞」中学生部門の実施 | 回  | 1  | 1  | 100% |

#### 図書館見学・職場体験

児童・生徒に図書館に親しんでもらうことで、日常的な利用と読書機会増加の促進を図っています。

主に小学生は図書館見学、中学生は図書館での職場体験を行います。

児童・生徒にとって、普段見られない図書館の一面を知ること、気になったことを積極的に探究する機会となります。職場体験は、図書館スタッフとして実際の業務をしてもらうなど、キャリア教育の一貫も兼ね備えています。

図書館にとっても、児童・生徒の意見を直接聞くことができる貴重な機会として大切に考えています。



職場体験で生徒が作成したPOP

出典：「MIRAI SCHOOL いたばし ー子ども読書活動2030ー」(P21 一部抜粋)

#### 板橋区立図書館サポーター制度

「板橋区立図書館サポーター」は登録制のボランティアで、図書館運営・事業を支援していただくパートナーです。区立図書館をはじめ、区内施設（保育所・幼稚園・高齢者施設など）・イベントでの読み聞かせ、学校図書館の運営補助（書架整理、本の貸出・返却など）の活動をしており、子どもと本の出会いをサポートしています。

出典：「MIRAI SCHOOL いたばし ー子ども読書活動2030ー」(P25 一部抜粋)

## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>読書を通じた子どもの育成をめざし、各種コンクールの開催、図書館サポーターによる読み聞かせ、学校図書館活動の支援など取組を進めてきたが、読書率は低下傾向にある。</p> <p>電子図書館の導入、団体貸し出しの利用促進など様々なアプローチをしているところではあるが、児童・生徒・学校の教育課程やニーズに合わせた柔軟な地域連携が必要だと考えている。</p> <p>各区立図書館では近隣の小中学校での出張おはなし会、ブックトークやビブリオバトル※講座、図書委員会との定期的な交流など行う一方で、区立図書館内に児童・生徒が作成したポップ展示やコーナー展示を行うなど、読書の楽しみや魅力に触れる機会の創出に努めており、今後も学校図書館司書と地域図書館司書の連携、協働を進めるとともに、子どもたちの意見を取り入れられる仕組みや自己発揮、自己実現につながる事業展開を進めていく。</p> |     |     |        |

※ ビブリオバトル（東京都立図書館ホームページ「ビブリオバトルQ&A」より）

自分が面白いと思った本を持ち寄って5分間で順番に紹介し、その発表についてそれぞれ2、3分間のディスカッションを参加者全員で行って、最後に一番読みたくなった本を投票で決めるというゲームです。

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>全国大会で好成績を残したことは板橋区の読書活動の進展を示す一方、事業指標において、「コンクールの実施」は計画通りに実施することが比較的容易であるため、前年度との参加者の比較や参加者数の学校による偏り等、課題改善に資する指標の設定と検証も行われるとよい。</p> <p>また、コンクール応募者数は小学生に比べると中学生の応募が著しく少なく、この傾向は読書率とも関連していると考えられるため、改善が必要である。</p> <p>ブックトークやビブリオバトル講座などは、読書活動の活性化に効果的であるので、より一層の活発な実施を期待する。</p> <p>図書館を活用した調べる学習や読書感想文、絵本翻訳大賞などの取組を通じて、児童・生徒が本に親しみ、読む力・考える力・表現する力を育む機会が着実に確保されている点を評価する一方、今後は学校図書館と区立図書館の連携や、電子図書・団体貸出の活用状況を検証しつつ、普段本を読まない児童・生徒にも読書機会を上げ、子どもの興味・関心や意見を取り入れた施策で日常的な読書習慣の定着を目指すことが、効果的な事業推進につながる。</p> <p>次年度は事業実績（応募者数）を目標値として設定して取り組むようにすべきである。また、応募者数以外の指標も検討してほしい。</p> |     |     |        |

|    |                   |
|----|-------------------|
| 番号 | 所管課：地域教育力推進課      |
| 2  | 放課後対策事業「あいキッズ」の推進 |

### 事業目標

児童の放課後などの安心・安全な居場所の提供及び健全育成。

### 事業概要

「あいキッズ」は、全児童を対象とした放課後子ども教室推進事業と就労家庭などを対象とした放課後児童健全育成事業を、校内交流型として、平成 21 年度から区内の全区立小学校で実施している。平成 28 年度には土曜日の実施を開始した。

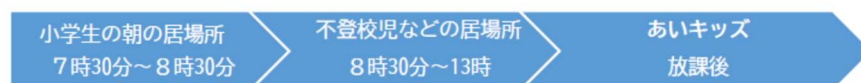
運営は民間法人に委託し、遊びやスポーツ、工作・読書、季節行事、地域の参加による交流・体験活動、学習活動など、多彩なプログラムを実施している。

今後も運営の質の更なる向上を図り、児童の放課後をより充実したものとしていく。

| 事業指標                | 単位 | 計画  | 実績  | 達成率  |
|---------------------|----|-----|-----|------|
| ① 定期巡回の実施回数         | 回  | 153 | 153 | 100% |
| ② 利用児童等への意見聴取の実施施設数 | 校  | 51  | 51  | 100% |
| ③ 電子申請の導入施設数        | 校  | 51  | 51  | 100% |

令和 10 年度に、あいキッズは 20 周年を迎えます。これからのあいキッズは、子どもが安心・安全に過ごせるだけでなく、「つながり、学び、成長する」喜びを感じられる居場所となることをめざしています。地域の方々と一緒に行う体験活動などを中心に、子どもの意見も積極的に取り入れ、楽しく・学べる・充実した放課後になるよう取り組んでいきます。また、あいキッズが学校敷地内にある強みを活かして、あいキッズは「一日の居場所」へと変わります。

#### ◎一日の流れ（学校運営日）



◎あいキッズでは、地域との連携を強化し、地域サポーター事業をより充実させていきます。



#### 地域サポーター事業とは？

あいキッズが地域（板橋区内に限らず）の個人や団体との連携による多様で魅力的なイベント・プログラムの実施を通じて、体験・交流の機会を提供し、子どもがつながり、学び、成長する喜びを実感できるようにする事業。

#### 【例】上板橋第四小学校あいキッズの運営

地域サポーター事業による本格的な定期プログラムとして、ドッジボール、フットサル、習字、大江戸ダンスなどを行っています。



## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                           | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>定期巡回・子どもの意見聴取・電子申請は、あいキッズ事業の目的である、①子どもたちの安心・安全、②子どもたちの健全育成、③子育てと仕事等の両立支援を実現するための手法であり、一定の成果を挙げているものと捉えている。</p> <p>次年度に向けては、事業運営や企画立案への参画など、企画段階から子どもたちが関わる意見聴取の方法等をあいキッズ間で共有することや、巡回時の確認事項及び電子申請手続き等の検証を行い、あいキッズの価値を高められるよう更なる充実を図っていく。</p> |     |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>全校であいキッズの電子申請が導入され利便性が向上したこと、利用児童等の意見聴取を反映する仕組みが構築されていること、区職員が各校を年3回巡回して実情把握と危機管理を行う計画的取組が評価できる。</p> <p>一方で、定期巡回は区職員の負担も相当なものであり、次年度以降は、一部にオンライン活用もあってよいのではないかと考える。</p> <p>また、受託職員への研修は電子申請だけでなく、児童の教育全般に関与する者としての職員研修が定期的に実施されることが望ましい。</p> <p>あいキッズは、学年が上がるほど利用率が低下する傾向から、主体性や選択肢を尊重した多様な環境整備と子どもの企画参画の仕組みが必要であり、意見聴取の方法や取りまとめ方が十分であるかを所管課が把握し、好事例や改善点を他の事業者へ共有し、委託事業としての運営品質の均一化に取り組み、電子申請導入後の利便性と現場負担の検証を踏まえて、安心して魅力ある放課後の居場所としての充実を図るべきである。</p> <p>また、実施した事業について、事業指標がこれでよいのか検討すべきである。</p> |     |     |        |



|    |                    |
|----|--------------------|
| 番号 | 所管課：指導室            |
| 3  | 板橋区立学校学級安定化対策事業の実施 |

#### 事業目標

- ・学級集団の状態を良好にすることで学力向上を図る。
- ・全校で非承認群の割合を全国平均（令和3年度は18%）以下にする。
- ・アセスメントを活用し、いじめ、不登校の早期対応を図る。

#### 事業概要

学力の定着・向上を図るためには、子どもたち一人ひとりが自己の力を安心して発揮し、主体的に学習に取り組むことのできる学習環境を確保することが必要である。そこで、学校生活における満足度や意欲、学級集団の状態を把握することのできるアセスメントを実施する。

このアセスメントを実施することにより、子ども一人ひとりの満足度や意欲、学級全体の状況を教員が把握し、学習環境の安定に努める。また、アセスメントを実施することで、いじめ被害にあっている児童・生徒の発見や早期対応、不登校の未然防止につなげる。

| 事業指標                                   | 単位 | 計画 | 実績 | 達成率  |
|----------------------------------------|----|----|----|------|
| ① 管理職を参集した研修の実施                        | 回  | 1  | 1  | 100% |
| ② オンデマンドによる操作研修                        | 回  | 2  | 2  | 100% |
| ③ アセスメント実施回数<br>(小学校第3～6学年児童、中学校全学年生徒) | 回  | 2  | 2  | 100% |
| ④ 教員対象活用研修（各小・中学校教員）                   | 回  | 1  | 1  | 100% |

#### 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                               | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>アセスメントを学校教育の改善に活かすという観点から、実施時期や実施手法は適切であると評価できる。</p> <p>また、紙ベースから WEB を活用した形に変更し、即時フィードバックの実現を図った点、対象学年を拡大し、支援の充実を図ったなどの点も評価できる。</p> <p>令和7年度の区立学校における学級満足度はおよそ 55%であり、全国平均の 43%を超えており、学級が安定していることが伺える。</p> <p>学級安定化の結果として、学力の定着・向上に成果が見られたため、本事業は継続すべきである。</p> |     |     |        |



## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>令和7年度において、板橋区内の小中学校の非承認群割合が全国平均を下回る14%に達したことは評価できるが、目標は全校で下回ることであったので、この可否について板橋区内の全校個別に確認する必要がある。同時に Web 活用によるアセスメントの対象学年拡大と、管理職・教員向け研修が計画通りに実施されたことで、児童・生徒の状況を迅速かつ的確に把握でき、早期支援や学級安定化が促進される一方、アセスメント実施対象外である低学年児童の支援のありかたを検討することに加え、受講者からの研修に関する評価について、事業の成果検証に必要であるので、その分析を改善に生かしていくことが望まれる。</p> <p>全体としては効果的な事業であり、非承認群割合のさらなる低減に加えて、今後は得られたデータを単に把握するだけでなく、教員が適切に分析し、いじめ・不登校の予兆把握や個別支援、学級経営の改善に確実につなげることが重要である。</p> <p>また、次年度は「学級満足度」も事業指標に組み入れるべきである。</p> |     |     |        |

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 番号 | 所管課：指導室                       |
| 4  | 各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組 |

#### 事業目標

児童・生徒自らいじめについて主体的に考えられるような機会を設定し、全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、「当てはまらない」と回答する割合を0%にする。

#### 事業概要

全区立学校園では、条例に基づき、いじめの防止などの取組についての基本的な方向や、取組の内容などを基本方針に定めている。

基本方針には、いじめを定期的に確認するためのアンケートを実施することや、自尊感情を育む授業をどのように実施するかなどを明確に示している。

また、策定した基本方針は、学校だよりやホームページなどで保護者や地域に公開し、取組の成果は学校評価アンケートや、いじめ防止対策委員会などにおいて定期的に検証を行い、より実効性のある基本方針となるよう改善を図る。

| 事業指標                   | 単位 | 計画 | 実績 | 達成率  |
|------------------------|----|----|----|------|
| ① 全体校長会や生活指導主任研修での理解啓発 | 校園 | 75 | 75 | 100% |
| ② 各校へ配付・活用推進           | 校園 | 75 | 75 | 100% |
| ③ 全校での実施               | 校園 | 75 | 75 | 100% |

### 学校いじめ防止基本方針について

学校いじめ防止基本方針では、「①重大な人権侵害であるとの認識に立ち、いじめの未然防止に取り組む。」「②どの子どもにも、どの学校でも起こり得るものであるとの認識に立ち、いじめの早期発見に取り組む。」「③心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるとの認識に立ち、いじめの早期対応に取り組み、早期解決を図る。」の以上を基本方針の3つの柱とし、「板橋区における対策」、「教育委員会における対策」、「各学校における対策」を定め、いじめ対策に取り組んでいます。

その中でも、学校における対策では、「いじめの未然防止の取組」として、教育活動全体を通じて、児童にかけがえない自他の生命や人権を尊重する心と態度を醸成するため、道徳教育・人権教育などの充実を図っています。

また、「いじめの早期発見の取組」として、定期的なアンケート調査や教育相談の実施などにより、いじめの実態把握に取り組むとともに、子どもが日頃からいじめを訴えやすい雰囲気作りを進めています。

そのほか、養護教諭、スクールカウンセラーなどを構成員とした「学校いじめ防止等対策委員会」の設置、「教職員がいじめ対策に取り組める資質・能力を身に付けるための校内研修の実施」など、様々な取組を行っています。



出典：いたばし学び支援プラン2025（P64 一部抜粋）

## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                    | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>板橋区いじめ防止対策基本方針の内容について、全体校長会の機会等を捉えながら繰り返し周知徹底を図るといった実施手法は適切であると評価できる。</p> <p>また、各学校園で活用するための啓発資料を作成したり、学校いじめ対策委員会に指導主事等が加わり、対応について助言したりするなど、現状に応じて対応を工夫している点も評価できる。</p> <p>各学校園において、いじめ対策の充実が図られていることから、本事業は成果が認められるため、継続すべきである。</p> |     |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 概ね順調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|--------|
| <p>全体校長会(計 11 回)や生活指導主任研修等を通じていじめ防止の基本方針と SOS の出し方を全校で周知し、管理職のリーダーシップはもとより、ミドルリーダーである生活指導主任や、経験・知見がこれからの初任者においても、広く研修で理解啓発が行われており、今後も継続を期待する。</p> <p>一方、制度が整っていることに加え、現場での実効性や実践の質が十分に担保されているかを定期的に確認することが重要である。</p> <p>特に、子どもが実際に SOS を出せる環境となっているか、各学校の組織的対応体制が機能しているかについて、現状把握と見直しを継続していく必要がある。</p> <p>いじめ事案では初期対応の迅速性が極めて重要であり、教員個人に対応を委ねるのではなく、管理職を含めた組織的対応を徹底し、保護者対応においても複数体制で冷静かつ丁寧に対応することで、教育活動を止めずに適切な解決につなげる取組を行い、いじめはどの学校でも起こり得るという認識を共有し、児童・生徒が安心して相談できる環境づくりと、早期発見・早期対応の徹底を進めていく必要がある。</p> |      |     |        |

|    |               |
|----|---------------|
| 番号 | 所管課：指導室       |
| 5  | 不登校改善重点校事業の実施 |

#### 事業目標

教室以外の多様な居場所づくりを推進するとともに、すべての不登校児童・生徒が適切な支援を受けられるようにする。

#### 事業概要

不登校改善重点校を指定し、不登校児童・生徒の個々の状況に応じた必要な支援について、実効性のある取組を実践する。

また、重点校の管理職など関係諸機関の職員で構成する不登校対策特別委員会を開催し、学識経験者からの助言を基に、不登校対策の取組を検討及び実践し、区立小・中学校に実践事例などを周知する。

区立小・中学校では、不登校児童・生徒の現状について、学びのエリアなどで情報共有を図り、不登校対策特別委員会の取組などを参考に、不登校児童・生徒に対して適切に対応をしていく。

| 事業指標             | 単位 | 計画 | 実績 | 達成率  |
|------------------|----|----|----|------|
| ① 不登校対策特別委員会の開催  | 回  | 3  | 3  | 100% |
| ② 不登校対応ガイドラインの改訂 | 回  | 1  | 1  | 100% |

板橋区教育委員会事務局指導室では、令和3年5月に「不登校対応ガイドライン」を策定し、その後、令和5年4月に改訂を行いました。さらに、社会的背景や国・東京都・板橋区における不登校の現状を踏まえ、不登校の未然防止、早期対応及び自立支援に向けた取組の一層の充実を図るため、令和8年4月に「不登校対応ガイドライン」を改訂しました。

#### ▼ 【参考】「板橋区立学校における不登校対応ガイドライン」より引用

##### 不登校対応方針

不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、将来、児童生徒が豊かな人生を送れるよう、社会的に自立することをめざすものである。

##### 不登校児童生徒に対する支援の基本的な姿勢

不登校とは、複雑で多様な背景・要因によって、児童生徒が「結果として不登校の状態になっている」ということであり、その行為を「問題行動」と判断してはならない。

## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                              | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>不登校対策特別委員会を計画的に実施することで、不登校対応ガイドラインの改訂につなげるなど、本事業が一体的な取組として機能している点が評価できる。</p> <p>今後は、不登校対応ガイドラインの着実な実施に向けて、登校支援シート等のアセスメントを活用した支援会議の充実や、小学校段階における支援の在り方について工夫して検討していく必要がある。</p> |     |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>不登校は全国的課題であり板橋区では減少傾向にあるものの、改善のためには不登校改善重点校に指定された学校の取組が、他校に良い影響を及ぼす仕掛けが重要である。</p> <p>不登校対策特別委員会を計画的に開催し、学校・学識経験者・教育委員会が連携して、不登校対応ガイドラインの改訂につなげた点や、個別支援や多様な居場所創出など、学校全体での組織的支援体制が整えられた点は高く評価できる。</p> <p>慎重な対応を要する課題に真摯に向き合い、小学校段階からの早期支援や予兆対応に踏み込んでいることも重要な成果である。</p> <p>一方で、不登校の背景や要因は児童・生徒ごとに大きく異なり、ガイドラインやモデルケースにそのまま当てはめるだけでは十分でない場合もあるため、問題点や事業の成果検証に基づく方針の策定が継続的に行われ、個別の状況に応じた支援をどこまで具体化できるかが今後の課題である。</p> <p>通学が困難な児童・生徒はコミュニケーションの機会が限られるため、会話や発言、行動などから得られる情報を丁寧に把握し、関係者間で共有しながら、本人の特性や家庭状況を踏まえた対応につなげることが重要である。</p> <p>今後は、ガイドラインの実施が、「いたばし全体を学びのキャンパス」へと広げる取り組みと連動し、多様な学びの支援として実践されることが期待される。また、他に取り組むことが必要な事業がないか要検討である。</p> |     |     |        |

|         |               |
|---------|---------------|
| 番号<br>6 | 所管課：教育支援センター  |
|         | 板橋フレンドセンターの充実 |

#### 事業目標

本教室を誰もが通いやすい身近な居場所とし、通級生の社会的自立をめざす。

#### 事業概要

不登校の背景にある様々な要因に対して、日常的な心理的ケアを実施するために、高い専門性を有した専属の心理相談員の配置をめざし、不登校児童・生徒が通いやすい身近な居場所として、新たな分室の設置を検討していく。  
子どもだけでなく、保護者の悩みに寄り添う心理相談や、保護者同士の情報交換や悩みを共有できる交流会を充実させていく。

| 事業指標             | 単位 | 計画  | 実績  | 達成率   |
|------------------|----|-----|-----|-------|
| ① フレンドセンター相談件数   | 件  | 700 | 526 | 75.1% |
| ② フレンドセンター通級登録者数 | 人  | 200 | 181 | 90.5% |
| ③ 不登校者数における通級割合  | %  | 21  | 15  | 71.4% |

#### ～「板橋フレンドセンター」ってどんなところ？～

様々な理由で学校に行くことができないでいる児童・生徒が、探究的な活動や体験活動、創作活動、他者との交流などを通じて、自己実現を図るための場所です。

##### ○相談の場

- ・不登校で悩んでいる子どもとご家族のため、通級に関する相談（電話・来所）を行っています。（適応支援アドバイザーが相談を行います。）
- ・通級児童・生徒のための心理相談室もあります。（臨床心理士が相談を行います（水曜日）。）

##### ○学び・安らぎ・交流の場

- ・自分が学びたい内容を、自分のペースで、自分の学び方で学ぶことができる場。
- ・時には仲間と、時にはひとりで取り組むなど、安心して過ごすことができる場。
- ・学年や性別を超えて、いろいろな人と出会い、交流することができる場。
- ・経験を積んだスタッフが、学びの支援や個別相談などを行います。
- ・体験活動や学びの時間は、参加の有無も含め、みんなと一緒にいくか、一人で行うかなどは自分で選べます。



板橋フレンドセンター入口



メインルーム（2階）



## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 概ね順調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|--------|
| <p>フレンドセンターについては、校内の教室外や学校以外の居場所などの多様な居場所の充実により、通級児童・生徒数は減少しているものの、学校環境に抵抗感を抱く児童・生徒にとっては、引き続き重要な選択肢であり、その機能の充実が必要である。</p> <p>また、体験学習は参加児童・生徒の満足度が高く有効な取組であり、大学との連携により若手人材に定期的に支援に入ってもらうことにより、多様な支援体制の構築が進んでいる。</p> <p>一方で、スタッフは退職した教育管理職が行っているため、勤務延長の関係から人材確保の面では課題があり、安定的な運営に向けては、委託化も含めた体制整備の検討が必要である。</p> <p>重点施策である、「誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備」の実現に向けて、今後も機能の充実と持続可能な運営体制の構築を図っていく。</p> |      |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 概ね順調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|--------|
| <p>板橋区において不登校者数が減少傾向にあることは取組の成果と評価でき、大学との連携による学生ボランティアや実習生の受け入れは児童・生徒の満足度向上と将来の教員養成に資すると同時に、フレンドセンターのスタッフが元教育管理職である点は知見の活用に有効であるものの、管理職経験者に限らず教職経験者の任用も検討すべきであると考えられる。</p> <p>また、通級生への面接・心理相談・保護者交流会・体験学習を通じた安心できる居場所づくりや、オンライン・少人数空間・体験活動といった多様な居場所の提供、在籍校との情報共有や学校訪問による支援の孤立防止、若手人材や大学生ボランティアの活用により子どもたちが教員以外の関わりで刺激と安心感を得られる点は高く評価できる。</p> <p>一方で、相談件数や通級登録者数・割合の減少は他拠点への分散と捉えつつ、つながれない子どもがいないかの確認やメタバース活用・保護者交流会参加促進・人材確保といった課題への対応、さらに活動内容を広く周知し持続可能な運営体制を強化することが今後の重要課題である。</p> |      |     |        |

#### (4) 学識経験者による所管課ヒアリング意見・助言（要約）

##### ▼（事業1）区立図書館と学校との連携強化

###### ○ 中村 豊 氏

重要なキーワードの調べ学習、特に探求のための資料として、どのような視点で用意しているか。

学校図書委員会との連携について、小学校と中学校では発達段階が異なるため、具体的な活動内容を示していただきたい。

小・中学生の読書時間や、本を日常的に触れている人数が減っているという統計等もある中で、既に電子図書を導入しているが、図書選定にあたっては、貸し出し状況、世代等の情報を把握しているのか。

###### ○ 林 幸克 氏

目標の「読書活動、学習活動の定着を目指す」について、定着したかを判断するための基準や指標が何なのかを明らかにする必要がある。

目標の定着をめざすという視点で捉えた際、事業実績の人数を比率で見て、今後この数値をどうしていくかといった、見通しを立てる必要がある。

分析に記載されている「各コンクールに挑戦することで手にとった資料から情報を選び出す、読み込むということが、児童・生徒の探究心、読解力向上のきっかけとなっている。」について、何を根拠に記載しているのか明記する必要がある。

特別な配慮を要する特別支援学級の児童・生徒や、日本語学級に通級している児童・生徒への対応について、どのような考えをもって取り組んでいるのか。

##### ▼（事業2）放課後対策事業「あいキッズ」の推進

###### ○ 中村 豊 氏

放課後事業については、一定の人間関係の子どもが同じ学校の中で活動するため、学校教育の延長線上にあると考えられるが、子ども同士のトラブルや保護者などの対応について、委託事業者に対する事前研修や、情報の共有・連携を図っていく必要がある。

委託事業者に対する外部評価以外に、一定の評価基準をもって自己点検・自己評価する仕組みを検討してみてはどうか。

###### ○ 林 幸克 氏

「あいキッズ」の利用状況について、学年別や利用区分別（きらきらタイムのA区分～S区分）の実態、特別支援学級や日本語学級の児童・生徒がどのように利用しているかなど、具体的に明記すべきである。

3月に改訂した利用児童への意見聴取ガイドラインについて、具体的にどういう形で周知をしているのか、どのように活用しているのか。



### ▼（事業3）板橋区立学校学級安定化対策事業の実施

#### ○ 中村 豊 氏

WEBQU はコストのかかる検査ではあるが、安定した学級経営に生かすために、利用する先生だけでなく、管理職を対象にした研修を実施し、学校現場で活用が図られている。さらに、スクールカウンセラーなどの専門職との発展的な活用もされており、いじめの未然防止の点からも効果的である。

次期学習指導の改訂が進む中で、学級経営というキーワードが挙がっており、これらの取組は、その流れに沿ったものである。

WEBQU のデータを小学校から中学校に引き継ぐことや、特に特別支援学級の小学校から中学校への引き継ぎについて、今後検討をする必要があるのではないかと。

#### ○ 林 幸克 氏

「非承認群の割合を低くする」ことを目標に掲げているが、所管課評価総括では学級満足度についての記載があること、事前質問に対する回答では要支援の児童・生徒についての言及もあったことを勘案すると、どこに焦点を当てて事業を進めていこうとしているのか不明確である。また、何をもって効果があったとしているのか明確にする必要があるのではないかと。

### ▼（事業4）各学校園における「学校いじめ未然防止等基本方針」による取組

#### ○ 中村 豊 氏

いじめの積極的認知について周知徹底が図られてきており、次の段階として法に基づき適切な初期対応をするため、具体的な過去の事例を通じて研修していく必要がある。研修にあたっては、区の指導主事だけではなく、法律の内容に精通した専門家による研修を検討してみてもどうか。

基本方針も大事な考え方ではあるが、いじめの質が少しずつ変わってきているところもあり、初期段階の対応を失敗しないために、専門家の知見を活用するなど、次の段階に進むべきである。

#### ○ 林 幸克 氏

「学校いじめ防止基本方針」を学校だよりやホームページなどで、保護者や地域に公開しているが、認知状況を把握・検証する必要がある。また、iCS との連携・活用についても考えていく必要があり、小学生の保護者がいない地域の人への周知も検討すべきである。

いじめ防止啓発資料の具体的な活用、活用状況の検証について検討する必要があるのではないかと。

## ▼（事業5）不登校改善重点校事業の実施

### ○ 中村 豊 氏

校内支援センターをめざすところとしては、「学校復帰」、「極力学校につなげる」、「社会的自立」などがあるが、板橋区としての基準を設けているか。将来的に社会的自立をめざしていくことは大事なことでありとしながらも、必ずしも学校復帰をめざす必要はないというのはダブルスタンダードな考え方である。選択肢として、学校へ戻れるものであれば、そういった働きかけも必要である。

不登校になってどこにも繋がっていない子どもが、全国で約3割近くいる中で、取り残される子を出さないために必要な取組であり、実効性を担保するためにも、専門性を持った支援員の配置など、事業者選定時に見極めることが必要である。

### ○ 林 幸克 氏

改訂後に周知した「不登校対応ガイドライン」の活用状況を把握する必要があるのではないか。「教室以外の安心して過ごせる居場所」について、中学校の活用・成果状況を把握しているが、小学校の状況が把握できていないため、今後の方針を見極めるうえでは把握する必要があるのではないか。

令和5年度と令和6年度の不登校児童・生徒数を実人数で比較するだけでなく、該当する児童・生徒の割合の推移も見えていくことが必要である。

## ▼（事業6）板橋フレンドセンターの充実

### ○ 中村 豊 氏

フレンドセンターの職員について、現状非常勤扱いとして配置されており、管理職経験者が大多数である。そのため、切れ目のない円滑な職員採用にあたり、国家資格である公認心理師を有している方や、管理職ではなくとも、子どもに寄り添った力量ある先生も多くいると思われるので、将来的にはそれらの任用を含め検討することを期待している。

支援につながっていない児童・生徒や、不登校予備軍の児童・生徒に対して、「誰1人取り残さない支援」を実現するため、学校との情報共有が図られるよう、連携がより深まっていくことを期待している。

フレンドセンターに通級している子どもを「エネルギーをためている時間」と捉えているとのことだが、エネルギーが溜まった後に、次に何か繋がる道がないと、自立に向けて子ども自身が進んでいくことは難しいのではないか。

板橋区として、義務教育の段階でめざしているところを明確にする必要があるのではないか。

不登校児童・生徒の人数が全国的には増えている中、板橋区では令和5年から6年にかけて減少しているというのは、素晴らしいことである。減少した要因を分析する必要があるのではないか。

## ○ 林 幸克 氏

目標に「通級生の社会的自立をめざす」と掲げているが、通級生が将来どのような姿になったら社会的自立をしたと捉えるのか、指針を設定し、検証していくことが必要である。

所管課評価総括に「体験学習は参加児童・生徒の満足度が高く、有効な取組」とあるが、どのような検証を実施してその根拠としているのか、具体的に明記する必要がある。

支援に繋がっていない児童・生徒の状況を確認するためには、フリースクールや、学校以外の居場所の利用状況についても把握する必要があるのではないか。

## （５）学識経験者と教育委員による意見交換会の意見・助言一覧

### ▼（議題１）区立図書館と学校との連携強化

- 中学生の読書率が低く、コンクールの応募者数も少ないというところは課題である。
- 図書館を使った調べる学習コンクールや読書感想文を通じて、子どもが本や資料に触れること、また自ら調べること、考えて表現する機会が継続的に設けられており、努力の成果を発表する環境が整備できている点を評価する。
- 事業を実施することのみならず、読書習慣を定着させることが必要であるため、普段本を読まない子どもたちに、どのようにして本に興味を持たせることができるかが重要となる。
- 成果検証の方法について、客観的なエビデンスとして何か数値で示すことができるようなもの、設けていくことが必要である。
- 学習指導要領の特別活動との関連において、この学校図書館との連携を進めていくことも可能ではないか。
- 今後は情報活用能力の重要性が高まる中で、学校図書館とどのように連携して能力を伸ばしていくのかが、今後の課題となる。
- 一般の児童・生徒のみならず、支援が必要な児童・生徒へも視野を向けるべきである。
- 学校同士の連携について、小中学校の相互連携のみならず、中学生のその後の変化についても追跡していき、効果検証に繋げていくべきではないか。
- 委員会同士での連携も今後は重要であり、お互いに刺激を受け合い、情報を共有しながら、新しい活動に繋げていくことができるのではないか。
- 学校評価の中に、本施策に関連するような項目を含め、学校教育現場と連携することも必要ではないか。
- 絵本から普通の文章になった本を読む際に、かけ橋になる部分が不足しているのではないか。それに加え、子どもたちに「自己調整の力」をどのように身に付けさせるか、今後検討していくべきである。
- 教育委員会事務局側も、今後は相互連携力を高めることが求められ、複数課で連携して事業推進にあたる必要があるとなる。

## ▼（議題2）放課後対策事業「あいキッズ」の推進

- 「あいキッズ」の利用状況を丁寧に把握し、実態を理解する必要がある、入学する前の段階から意見聴取を行い、ニーズを把握することが望ましい。
- 子どもたちが、毎日様々な気づきが得られるよう、チャンスを与えてくれているというところは、非常に高く評価できる。
- 子どもの意見聴取を行いながら事業を推進しているところ、企画立案への参画や研修にも、子どもたちの意見を届けていければ、よりよいのではないか。
- 「あいキッズ」は教育全般に関わる分野であるため、委託業者に対して、今後は幅広い研修を実施し、委託業者が自己点検・自己評価を行えるような仕組みも検討すべきである。
- 小学校、中学校、高校、大学と全体で連携することによって、もっと居場所が増え、子どもたちが居場所を自分たちでまた改善していくという、常に動的なシステムをつくることが課題である。
- 子どもの意見聴取について、それぞれ学年ごとに求められるニーズは異なるため、各施設の好事例や意見の情報共有を行い、子どもの実際の声を拾い上げていくにはどうすべきかという視点を持つ必要がある。
- 「あいキッズ」のひとつの意義として、異年齢間の交流が挙げられるが、上下関係の中から学べることはたくさんある一方で、高学年の利用者数の減少が課題である。

## ▼（議題3）不登校・いじめ対策の推進

- WEBQU の活用によって、学級の状態や子どもの困りごとの早期発見ができるようになったことは、高く評価できる。今後も、学級経営を推進していく際に、学級の目に見えないところをしっかりと見とっていくために継続して、研修も合わせながら、より充実させていくとよい。
- 専門家や他校の事例等、外部の知見を効果的に活用しながら、学校外の人も含め、社会問題として対応していくことが非常に重要である。
- 児童・生徒の実態が、変化してきていることに対し、学校側も、その変化を的確に捉えて対応していかなければならない。
- 子どもが SOS を出したときに、受けとめることができる体制が重要であり、自由に SOS を出せるような仕組みをつくっていく必要がある。
- いじめに対する初期対応について、どこを重視すべきかといったような知見が、共有されるには至っていない点は今後の課題であり、ケーススタディ等も重要となってくる。
- いじめや不登校に対して、学校のみで対応することは限界がある。教育の範疇に留めるのではなく、区長部局との連携等も今後は必要になる。
- いじめを地域全体の社会問題として対応するために、地域の人たちがどのように関わっていくのが重要となるため、青少年委員の活用についても検討すべきであり、地域対応の仕組みの構築の中で、人材開発もできるのではないか。
- 不登校については「居場所づくり」と「学校復帰」を目指すもの、2通りの支援があるが、両立させることは現状非常に困難であり、1つ1つの事例を確認しながら対応せざるを得ないため、そこをサポートできるような体制を構築していくことが、今後の課題である。

- 多様な学びの居場所を確保することができた点は評価できる。
- 満足度が高いことについて、感覚的なものでなく、根拠を明確にする必要がある。
- 目標の設定に関しては、検証ができるものにしていく必要がある。
- 職員について、管理職に限らず、教職経験者や心理に関して強い教員などの任用も、今後は検討していくべきである。
- フレンドセンターを出た後、どういった場所があるのか道を整備し、子どもたちが、自分のペースで未来に向かえていけるような環境を整えることが必要である。
- どこにも繋がっていない子どもたちを生み出さないようにするために、実際に行われている素晴らしい活動の状況を伝えていく、情報を行き届かせるということが、今後の課題である。
- 不登校の背景は一人ひとり異なるため、「居場所づくり」と「学校復帰」を画一的に当てはめるのではなく、本人の状況や希望に応じた支援を行う必要がある。社会的自立を学校復帰だけで捉えず、自分に合った学び方や居場所を見つけ、次の一步を自ら選べるよう支えるとともに、支援につながっていない子どもを把握できる体制を構築することが今後の課題である。

### 3 学識経験者の知見の活用対象外事業の点検・評価

#### (1) 点検・評価結果の概要

##### ▼ 教育委員会評価一覧

| 番号 | 個 別 事 業               | 評価標語 | 方向性    |
|----|-----------------------|------|--------|
| 7  | 特別支援学級の設置             | 順 調  | 工夫して継続 |
| 8  | 特別支援教育に関する理解啓発        | 順 調  | 工夫して継続 |
| 9  | 特別支援学級・特別支援教室等の専門性向上  | 順 調  | 工夫して継続 |
| 10 | 日本語の能力が十分でない児童・生徒への対応 | 順 調  | 工夫して継続 |
| 11 | 「絵本のまち板橋」の推進          | 順 調  | 工夫して継続 |

#### (2) 点検・評価結果の詳細

|         |           |
|---------|-----------|
| 番号<br>7 | 所管課：指導室   |
|         | 特別支援学級の設置 |

##### 事業目標

特別支援学級が設置されていない学校を改築する際は、近隣の学校との関係も考慮しつつ開設を検討し、増設を図る。

##### 事業概要

児童・生徒の発達や障がいの程度により、「知的障がい特別支援学級」と「きこえとことばの教室」の2つの特別支援学級を設置している。

「知的障がい特別支援学級」は小学校12校、中学校8校に設置しており、毎日通学し、指導を受ける学籍のある学級である。

「きこえとことばの教室」は小学校に2校、また、「ことばの教室」を小学校に1校設置しており、決められた日時に保護者が付き添いで設置校に通う通級指導学級である。

特別支援学級に在籍する児童・生徒は増加傾向にあり、新たな開設は現状では空き教室や経費・工事期間の関係で困難であり、今後の校舎改築に併せて検討していく。

| 事 業 指 標                     | 単位 | 計画 | 実績 | 達成率 |
|-----------------------------|----|----|----|-----|
| ① 自閉症・情緒障がい特別支援学級に係るソフト面の検討 | 実施 | 実施 | 実施 | -   |
| ② 自閉症・情緒障がい特別支援学級に係るハード面の検討 | 実施 | 実施 | 実施 | -   |
| ③ 検討内容報告の作成                 | 実施 | 実施 | 実施 | -   |

～自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置に向けた準備が進められています～

「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035-、-アクションプラン2028-」に基づき、多様な教育的ニーズに対応した学びの場を確保するため、自閉症・情緒障がい特別支援学級の令和10年4月開設（予定）に向けた準備を進めています。

▼ 自閉症・情緒障がい特別支援学級とは

自閉症やアスペルガー症候群を含む広汎性発達障害等により、対人関係や意思疎通に困難がある児童・生徒、または選択性かん黙など心理的要因により社会生活への適応に困難がある児童・生徒を対象とする特別支援学級です。児童・生徒が毎日通う「固定学級」として設置されます。

所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>区として新たな障がい種である自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置を検討するに当たり、学識経験者や医師等の専門家を含む外部委員で構成された特別支援教育連絡協議会において、設置に係る課題や留意点について協議を行ってきた点は評価できる。専門的な知見を踏まえ、ソフト面・ハード面の双方について整理を進めたことで、区として検討を進めるための基礎資料を蓄積することができた。</p> <p>今後は、整理された課題を踏まえ、教育委員会内の関係各課や学校現場の意見を踏まえながら、段階的に自閉症・情緒障がい特別支援学級の設置に向けた検討を継続していく。</p> |     |     |        |

教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>特別支援教室利用者の増加と保護者・現場からの自閉症・情緒障害特別支援学級設置要望を踏まえ、専門家を含む協議会においてソフト面とハード面の課題を整理し、校舎改築・改修に合わせた基本的な検討を継続している点を評価する。</p> <p>一方で、現時点では設置という具体的成果には至っていないため、今後の実行段階に向けた進捗を確認していく必要があり、教室や予算等のハード面に加え、担当教員の確保や専門性の担保も重要な課題である。</p> <p>今後は、検討にとどまらず実装につなげることで、増加するニーズに対してスピード感を持って対応すること、学校現場や保護者の期待とのギャップを丁寧に把握することを重視し、柔軟かつ着実に事業を進めていくことを期待する。</p> <p>また、特別支援学級の設置については、校舎改築に合わせて検討する方針が示されているが、改築には一定の期間を要するため、早期の設置には課題が残る。</p> <p>既存校舎や空き教室等を活用した暫定的な対応の可能性について検討の余地があると考えられる。</p> |     |     |        |

|         |                |
|---------|----------------|
| 番号<br>8 | 所管課：学務課・指導室    |
|         | 特別支援教育に関する理解啓発 |

#### 事業目標

- ・要支援児教育推進補助を実施し、私立幼稚園での要支援児教育を推進する。
- ・高島幼稚園での要支援児教育の実践を私立幼稚園と共有し、区内要支援児教育の質の向上を図る。

#### 事業概要

特別な支援を必要とする子どもたちへきめ細かな支援を行うには、周囲の子どもたちや保護者、幼稚園や学校の教職員の理解を深め、本人の力を発揮しやすい環境を作ることが重要であるため、理解啓発・促進のための事業を実施する。

また、特別な支援を必要とする幼児が増えていることから、区立幼稚園と私立幼稚園が連携し、受入れを促進するための仕組みづくりを進めていく。

| 事業指標                                                          | 単位 | 計画  | 実績  | 達成率  |
|---------------------------------------------------------------|----|-----|-----|------|
| ① 要支援児教育費補助金の申請園数                                             | 園  | 23  | 24  | 104% |
| ② 要支援児教育費補助金の申請人数                                             | 人  | 301 | 328 | 109% |
| ③ 要支援児教育研修受講者の満足度<br>※ 受講後アンケートで研修内容に「満足」、「まあまあ満足」と回答した参加者の割合 | %  | 80  | 85  | 106% |
| ④ 特別支援アドバイザーの派遣                                               | 校  | 74  | 74  | 100% |
| ⑤ 各校への資料提供や研修での活用                                             | 回  | 3   | 3   | 100% |
| ⑥ リーフレット配付                                                    | 校  | 74  | 74  | 100% |

#### ～「特別支援教育」とは～

特別支援教育は、障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な学びの提供や、必要な支援を行うものです。

また、特別支援教育は、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が在籍するすべての学校において実施されるものです。特別支援教育の推進に関し、教育委員会や、区立の小学校・中学校では、次のような事業などを実施しています。

#### ○特別支援アドバイザー

臨床心理士などの心理系資格を有する職員が、区立の幼稚園や、小学校・中学校の通常の学級において、教職員に対し、特別な支援を要する幼児・児童・生徒に関する助言を行い、その専門性の向上を図ります。これにより、特別支援教育に係る各学校の体制整備及び取組を促進します。

#### ○学校生活支援員

区立の小学校・中学校に対し、学校生活上の支援を要する児童・生徒への安全保持・生活支援・生活介助に当たる職員を配置しています。



## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>要支援児教育費補助金及び要支援児教育研修の実施により要支援児の受入れ体制の整備を支援することで、重点施策である「誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備」の実現に寄与した。</p> <p>今後は、要支援児教育研修において従前のオンライン・対面研修に加え、動画配信による研修を実施することで私立幼稚園の更なる参加を促し、要支援児教育の質の向上をめざす。</p> <p>また、特別支援アドバイザーの継続的な派遣を中心とした支援体制により、各学校において特別支援教育に関する理解が着実に深まり、教員の指導力向上につながった点は評価できる。</p> <p>アドバイザーの助言を校内研修や日常の指導に活かす取組が定着し、特別な支援を必要とする児童・生徒への対応力が組織的に高まっている。</p> <p>今後は、蓄積された指導事例を精査し、校内研修でより活用しやすい資料として整理するとともに、保護者への理解啓発についても、入学説明会等の機会を捉えるだけでなく、広報媒体を活用するなど、工夫を重ねながら取組を継続していく必要がある。</p> |     |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>公私が連携して要支援児の受入体制を整備し、研修参加者の85%が肯定的評価を示すことやリーフレット等による資料提供、区立小中学校全校への特別支援アドバイザー（月1回程度）派遣で教員の理解が深まっており、私立幼稚園への要支援児教育費補助や研修の拡充、補助金申請園数の増加に対応して動画配信の準備が進んでいる点は評価できる。</p> <p>一方で、区立と私立幼稚園合同の対面研修会は教職員同士の交流に有効であるため、動画配信が交流機会の減少につながらないよう受講について引き続き方策の検討が求められる。</p> <p>また、私立幼稚園の研修参加率の低さが課題であるため、支援事例や蓄積された知見を整理・共有してオンデマンドの動画配信等で学べる環境を整えることで教職員全体の対応力向上を図り、保護者・地域と連携した継続的な事業実施と、更なるニーズ拡大に対する適切な対応を期待する。</p> |     |     |        |

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 番号<br>9 | 所管課：教育支援センター・指導室     |
|         | 特別支援学級・特別支援教室等の専門性向上 |

### 事業目標

専門性向上事業を活用し特別支援学級及び特別支援教室に関わるすべての教員の専門性の向上をめざす。

### 事業概要

障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するための、適切な指導及び必要な支援を実施するため、特別支援学級、特別支援教室の教員のみならず、区立小・中学校 全教員の専門性の向上を図るとともに、個別指導計画を活用した個別最適な学びの実現をめざす。

| 事業指標                                  | 単位 | 計画  | 実績 | 達成率  |
|---------------------------------------|----|-----|----|------|
| ① 特別支援学級担任研修の実施                       | 回  | 3   | 3  | 100% |
| ② 特別支援教室に関する研修の実施                     | 回  | 6   | 6  | 100% |
| ③ 通級指導学級の教員に対する研修の実施                  | 回  | 1   | 1  | 100% |
| ④ 研修内容について授業実践に役立つと肯定的に回答した割合         | %  | 100 | 99 | 99%  |
| ⑤ 高島第二小学校における高島特別支援学校のコーディネーターによる指導助言 | 回  | 5   | 5  | 100% |
| ⑥ 特別支援教育専門官による授業公開                    | 回  | 3   | 3  | 100% |
| ⑦ 実践事例をまとめ、全校に周知                      | 回  | 3   | 3  | 100% |

## ～ 特別支援教育コーディネーター とは ～

### ○特別支援教育コーディネーターの役割

学校内の教職員全体の特別支援教育に対する理解のもと学校内の協力体制を構築するとともに、小・中学校と関係機関との連携協力体制の整備を図る。

具体的な役割として、小・中学校の特別支援教育コーディネーターは、(1) 学校内の関係者や関係機関との連絡・調整、及び、(2) 保護者に対する学校の窓口として機能することが期待される。

### ○特別支援教育コーディネーターに求められる資質・技能

- (1) 校内における特別支援教育体制の構築に関する連絡・調整
  - ・協力関係を推進するための情報収集、情報共有、交渉力や人間関係調整力
- (2) 特別な教育的ニーズのある児童・生徒や保護者の理解に関すること
  - ・障害のある児童・生徒の発達や障害全般に関する一般的な知識

## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                        | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>研究授業及び協議会を実施する実践的な研修や特別支援教育に関わる教職員によるペア研修、具体的な事例を通したより専門性を高める研修を実施することで、専門性向上や日々の授業改善に役立つと考える受講者の割合が多いものとなったと考えられる。</p> <p>今後も社会情勢を的確に捉えるとともに、受講者の研修ニーズを把握した研修を実施し、教職員の専門性向上をめざしていく。</p> |     |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>授業公開や研究授業を通じた実践的研修、教員・支援員・専門員・コーディネーター等が同じ視点で学ぶペア研修、指導案作成段階からの指導主事の関与、実践事例の全校共有など、研修を単なる知識習得にとどめず、授業改善と組織的支援につなげようとしている点は評価できる。</p> <p>一方で、研修満足度が高いことは評価できるものの、実際に日々の授業改善ほどの程度結び付いているか、欠席者への共有、異動後の継続性、専門性の属人化防止についても確認していく必要がある。</p> <p>今後は、質の高い研修内容を現場に定着させ、特別支援学級・特別支援教室にとどまらず、通常の学級を含めた全校的な理解と連携を深め、子ども一人ひとりの自立と社会参加につながる支援を進めていくべきである。</p> <p>また、都立の高島特別支援学校のコーディネーターによる巡回指導が年5回実施されており、専門性の高い教員による指導は極めて効果的である。</p> <p>その対象が令和7年度は高島第二小学校のみであったため、次年度以降は対象校を広げて巡回指導が実施されることを期待する。</p> |     |     |        |

|          |                       |
|----------|-----------------------|
| 番号<br>10 | 所管課：指導室・学務課           |
|          | 日本語の能力が十分でない児童・生徒への対応 |

### 事業目標

- ・就学後速やかに日本語の初歩を指導し、学校生活に早く適応できるよう支援する。
- ・外国籍の子どもの増加に対応できるよう指導体制を改善する。

### 事業概要

区では学校教育に必要な日本語の指導のため日本語学級を5校に設置しているが、来日（帰国）後間もなく、日本語を話せない子どもには、別途日本語初期指導を行い、学校生活に早期に適応できるよう支援している。

短期間で日本語の初歩を習得できるよう、原則として母語を交えた対面による指導とし、多言語対応可能で、かつ日本語教育にも習熟した専門事業者に委託している。

また、学校からの要請に応じて、ことば支援員を配置し、支援を行っている。

今後、外国人の子どもの増加が予測される一方、35人学級の導入などで日本語学級の増設は難しく、本事業の指導の内容や手法を改善・充実することで、日本語学級の負担を軽減し、学校教育に必要な日本語の指導に集中できるようにする。

また、日本語学級や在籍校において、一人一台端末などを活用して、より効果的な学習を推進していく。

| 事業指標                                                            | 単位 | 計画  | 実績  | 達成率  |
|-----------------------------------------------------------------|----|-----|-----|------|
| ① 日本語学級において、通級指導の実施                                             | 校  | 5   | 5   | 100% |
| ② 日本語学級担当者研修の実施                                                 | 回  | 2   | 2   | 100% |
| ③ 日本語学級設置校及び日本語指導に関わる加配教員配置校において、外国人児童・生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAの実施 | 校  | 5   | 5   | 100% |
| ④ ことば支援員のマッチング率                                                 | %  | 80% | 97% | 121% |
| ⑤ 日本語初期指導により、ひらがなの読み書きが「できる」「ほとんどできる」児童・生徒の割合                   | %  | 80% | 92% | 115% |
| ⑥ 日本語初期指導の受講者数                                                  | 人  | 87  | 92  | 106% |

### ～DLAとは～

DはDialogic（対話型）、LはLanguage（言語）、AはAssessment（アセスメント）で、それらの頭文字を取ってDLA（ディー エル エー）と呼んでいます。

DLAは、多文化多言語の子どもが、自分自身が持っているすべてのことばを使って「何ができるか」ということ、また、「一人でできること」だけでなく、「支援を得てできること」を、対話を通して多角的かつ包括的に把握することを目的としたアセスメントツールです。

覚えた日本語の知識だけを点数化、序列化するためのテストではなく、子どもがどのように学んでいるか、その学びはどのような支援があれば促進されるのか、どうすれば学習意欲を喚起できるのかなどを、さまざまな支援を与えながら、一対一で対話することによって捉えるためのものです。

出典：文部科学省「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA」より一部抜粋

## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>日本語指導やことば支援員の配置により、日本語指導が必要な児童・生徒が学校生活へ早期適応するための支援体制を着実に運用したことにより、重点施策である「誰もが希望する質の高い教育を受けられる環境の整備」の実現に寄与した。</p> <p>特に DLA の実施を通じて、個々の日本語能力を客観的に把握し、その情報を在籍校全体で共有したことは、組織的な支援を推進する上で大きな成果となった。</p> <p>今後も外国籍児童・生徒の増加が予測される中、一人一台端末の活用による効果的な学習機会の提供や、日本語学級と在籍校の連携をさらに深め、一人ひとりの教育的ニーズに応える体制を堅持していく。</p> |     |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 順 調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|--------|
| <p>日本語を話せない子どもの増加が続くことから計画的な日本語指導が求められ、日本語学級の増設が難しい現状では、ICT の音声翻訳機能を保護者対応も含めて今後活用していく必要がある。</p> <p>DLA により児童・生徒の日本語能力を客観的に把握し、その結果を日本語学級だけでなく在籍学級担任や管理職とも共有している点は高く評価できる。</p> <p>日本語指導を特定の担当者だけに委ねるのではなく、学校全体で児童・生徒の状況を理解し、通常学級での学びや生活の支援につなげていることは、個別最適な支援の実現に向けた重要な取組である。</p> <p>また、ことば支援員の配置や初期日本語指導により、学校生活への早期適応を支えている点も評価できる。</p> <p>一方で、外国籍児童・生徒の増加が見込まれる中、現在の個別対応型の支援を将来的に持続できるかは課題である。</p> <p>日本語の初期習得にとどまらず、教科学習に必要な日本語力の育成や保護者との連携支援まで含めた体制づくりが求められる。</p> <p>今後は、DLA の結果を個別指導計画や通常学級での授業改善にさらに活用し、学校全体で支援する体制を強化するとともに、令和 8 年度から予定される拠点施設の設置も含め、増加するニーズに対応できる持続可能な支援体制を構築し、児童・生徒一人ひとりの日本語習得状況や生活背景を丁寧に把握し、在籍学級との連携を深めながら、安心して学べる環境づくりを進めていく必要がある。</p> |     |     |        |

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 番号<br>11 | 所管課：中央図書館・生涯学習課 |
|          | 「絵本のまち板橋」の推進    |

### 事業目標

絵本を身近に触れてもらうとともに、絵本のもつ様々な魅力を感じ、発見してもらうことをめざす。

### 事業概要

ブランド戦略「絵本のまち板橋」の発信拠点の一つとして、絵本との出会いに始まり、絵本を通じたコミュニケーションの形成や、絵本文化を築き、良さを伝えていく事業、環境整備を図る。

また、いたばしボローニャ絵本館が起点となって、絵本文化を通じて海外文化や各国・地域の学びを深める取組の充実を図る。

| 事業指標                                                     | 単位 | 計画        | 実績        | 達成率  |
|----------------------------------------------------------|----|-----------|-----------|------|
| ① 「ボローニャ・ブックフェアin いたばし」の実施                               | 回  | 1         | 1         | 100% |
| ② 「いたばし国際絵本翻訳大賞」の実施                                      | 回  | 1         | 1         | 100% |
| ③ 小中学生向け絵本づくりワークショップの実施<br>(中学生向けは中央図書館のみ) ※ ( ) は中学生の内数 | 館  | 12<br>(1) | 12<br>(1) | 100% |
| ④ 講演会シリーズ「私の作ったこの1冊 (On the table)」<br>「世界の書棚から」の実施      | 回  | 12        | 12        | 100% |

#### 「ボローニャ・ブックフェアinいたばし」の開催

イタリアのボローニャ児童図書展事務局から寄贈された世界の絵本を展示する「ボローニャ・ブックフェアinいたばし」を中央図書館で開催します。期間中、お気に入りの絵本への投票といった参加型企画や、外国語おはなし会などを実施します。

また、「ミニ・ボローニャ・ブックフェア」として、区立各図書館へも巡回展示します。「絵本のまち板橋」として、子どもに各国の文化・言語・芸術と出会う場を提供します。



出典：「MIRAI SCHOOL いたばしー子ども読書活動2030ー」(P20より一部抜粋)

#### 「いたばし国際絵本翻訳大賞」中学生部門の開催

子どもが海外の文化にふれ、国際理解を深め、表現力や英語力を高めることを目的に、英語絵本の翻訳作品コンテストを実施します。

区立図書館では、課題絵本の原書や受賞された訳文などを閲覧できます。



出典：「MIRAI SCHOOL いたばしー子ども読書活動2030ー」(P24より一部抜粋)



## 所管課総括

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 順調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|--------|
| <p>様々な事業や機会にて絵本のもつ様々な魅力を感じ、発見できるよう、区内図書館にて「絵本のまち板橋」を推進するべくミニ・ボローニャ絵本展の巡回、定期的な絵本の読み聞かせ、絵本作家を招いたイベントや絵本の翻訳講座など、絵本の魅力を伝える取り組みを実施し興味関心のきっかけづくりをしてきた。</p> <p>また、小さな絵本館の設置では(104 施設)区民の日常に絵本がある取組も進めてきた。しかし、区民意識意向調査の結果では、「絵本のまち板橋」の取組についての満足度は34.3%であった。</p> <p>今後は、区民が主体的に参加できるクリエイティブな取組や様々な分野との連携・協働を強化し、事業を展開していく。</p> |    |     |        |

## 教育委員会評価

| 評価評語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 順調 | 方向性 | 工夫して継続 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|--------|
| <p>「絵本のまち板橋」は区の教育シンボルとして活性化が期待され、ボローニャ・ブックフェア、国際絵本翻訳大賞、絵本づくりワークショップ、講演会、国際交流、プラネタリウムプログラムなど、多彩な事業が計画どおり実施され、来場者数の増加や文化発信という成果が見られる点は高く評価できる。</p> <p>一方で、翻訳大賞の参加校に偏りがあることや区民意識意向調査における満足度(34.3%)が低いことなどが課題であり、全世代に届く企画や効果的な啓発活動、参加者層の拡大、区民が主体的に関わる仕組みの整備を通じて、学校・地域・海外文化との連携を深め、絵本を通じた学びと交流の魅力をさらに発信していただきたい。</p> <p>また、事業指標について実施回数のみならず、今後は来場者数や応募者数も指標に含めるべきである。</p> |    |     |        |

令和8年度（令和7年度分）  
教育委員会が行う点検・評価 報告書

編集 板橋区教育委員会事務局教育総務課

〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号

TEL 03-3579-2639 FAX 03-3579-4214

令和8年9月発行

刊行物番号 R08-66